

研究主題：教職員のコミュニケーション能力の向上  
 —「教職員研修ツール」の開発と実践を通して—

## SEL研修のポイントとは！？



第2回研究協議会を行いました。今回の研究協議会は、法政大学の渡辺弥生先生をお迎えして、現在、5つの協力校で実際に進めているSEL研修の様子を見て頂き、その大切な視点についてのご助言を頂きました。

今回の研修では、まず、教職員が保護者の話を聴く際のバッドモデルを「映像」で視聴し、その後、よりよい話の聴き方について話し合い、適切に関わるためのロールプレイを3人1組で行う内容でした。

### SEL研修の様子

「映像」は予めバッドモデルのロールプレイを録画したものです。「映像」の使用は、少ない研修時間の中でSEL研修を効果的に行うための試みでした。「映像」でも保護者の表情や教職員の対応の様子を捉えられ、研修が十分に可能であることが分かりました。

次に、研究協力校の教職員対象で行った「スキル調査」の結果についての考察を渡辺先生とともに行いました。

SELには「自己覚知」「社会的覚知」「自己マネジメント」「関係づくりスキル」「責任ある意思決定」の5つの「コア能力」があり、これらがどのくらい身に付いているかを調べたものでした。その結果、どの校種もベテランの教職員ほど、それぞれの能力が高くなっていることが分かりました。これは、経験により自己や他者の感情理解、感情のマネジメントが向上することを示しています。ベテランの力をどのようにして若手に伝えていけるかも、研究の焦点の1つであることが分かりました。



### 「スキル調査」分析



### 渡辺弥生先生の講義

能力向上には欠かせない視点をご教示いただきました。

渡辺先生から、以下のような内容の講義を頂きました。

- 保護者対応のロールプレイについて  
教職員は「心配だったんですね。」と保護者の不安を受け止めた上で、気持ちを聴くことが大切であること
- 感情について  
教職員がネガティブだと学級もネガティブになってしまうなど、「感情は感染する」こと

SEL研修による教職員のコミュニケーション